

# 小学生プログラミングコンテスト岩手県大会

# 未来の主役 思いを形に

## 最終審査10組が競う

県内のプログラミング教育の浸透を目的とした2023年度小学生プログラミングコンテスト岩手県大会の最終審査は17日、盛岡市上田の岩手大で行われました。県内から個人とチーム計10組が参加し、「みんなの mirai」をテーマに自分、大切な人、地域の未来のために役立つアイデアが詰まった作品を披露しました。

最終審査に出場したのは、過去最多エントリーの47組から選ばれた盛岡市と一関市の小学1～6年生の10組12人です。発表時間は1組4分、審査員長の宮川洋一・同大副学長、キオクシア岩手の神垣哲也常務ら10人が発想力と表現力、技術力を審査し、作品「熊には困った『熊WATCH』」を発表した盛岡・緑が丘4年の田村珠乃さんが1位に選ばれました。田村さんは来年3月3日に東京都で開催される全国選抜小学生プログラミング大会に出場します。

### 最終審査結果

- ▽1位 田村珠乃(盛岡・緑が丘4年)「熊には困った『熊WATCH』」
- ▽2位 田口蒼(盛岡・岩手大付属6年)「白人間と起きよう!!」
- ▽3位 スクワロチーム浅倉真(盛岡・岩手大付属4年)「選択!熱中症RPG」
- ▽キオクシア岩手賞 松井優輝(盛岡・岩手大付属1年)「おしいやんと無限お話しロボット」
- ▽NTT東日本賞 大津佑弥(盛岡・岩手大付属4年)「難民と学芸会争い」
- ▽NTTドコモ賞 高橋弘弘(盛岡・大蔵寺6年)「猫校長がスマホ専用cookieについて、詐欺メール対処法について教えてくれる塾」
- ▽codeMo賞 梨木啓生(盛岡・仁王6年)「『夢への1歩!』プログラミング」
- ▽盛岡市子ども科学館賞 竹田陽仁(盛岡・生田6年)「お金のない世界」
- ▽岩手大学賞 鈴木英士(一関・東山6年)「自分の選択で未来の自分」
- ▽岩手日報社賞 中最後太(盛岡・山岸5年)「だれでもけんごうアール」



笑顔で記念撮影をする出場者と審査員

## クマ感知システムを考案



初出場で1位に輝いた田村珠乃さん。作品「熊には困った『熊WATCH』」は、全国的に社会問題化し、本県では今年過去最多を更新したクマの人的被害のニュースから着想を得ました。作品テーマは「熊と人間の共生」で、カメラがクマの姿を感じ取れるシステムを考案しました。カメラがクマに反応すると警報音が鳴り、周辺にアナウンスが流れるほか、地域住民にはメールが一斉送信され注意喚起します。

### 1位の田村珠乃さん (盛岡・緑が丘4年)

田村さんは、カメラにクマを認識させるのが難しかったという「クマの人影をさまざまな角度から200枚超撮影して画像を取り込み、やっと正確に反応するようになりました」と振り返ります。全国大会に向けては「プレッシャーを感じますが、これからドリロンと組み合わせて、熊を山に追い払うところまで実現したいです」と意気込んでいます。父親で会社社員の光寿さん(57)は「クマを駆除してほしくないという珠乃の思いが作品テーマにつながりました。ドローンを活用したシステム開発も頑張ってください」と期待しています。

「熊と人間の共生」をテーマにした作品で1位に輝いた田村珠乃さん



田村珠乃さんの作品「熊には困った『熊WATCH』」の一場面

## AIも活用 レベル向上 審査員長



本大会の特徴は、単にプログラミングの技量を競うことのみを行う大会とするのではなく、プログラミングの裾野を広げ、未来ある多くの児童に「楽しみ」ながらプログラミングに慣れ親しむ機会を提供することにあります。

参加募集開始にあたり、次のような機会を提供することになります。参加者には、次のような機会を提供することになります。参加者には、次のような機会を提供することになります。参加者には、次のような機会を提供することになります。

「学校でパソコンやタブレットの勉強をすることが多くなりましたが、この便利な機械は人間が命令するプログラムで動いています。プログラムの勉強をする」と、この「不思議な魔法の箱」のしくみが少しずつ理解できようになります。そして、プログラミングを勉強する必要がある(物を作る)に必要となる(力)や創造力(何か新しいものを創りだす力)、粘り強さが自然と身につけていきます。大人にとって仕事をするときにも、パソコンやタブレット、スマートフォンは大きな味方になります。このすばらしいコンピュータを自由自在に扱えるようになるために、これから一緒に勉強していきましょう。

## 学び深める民間教室 必修化で普及

小中高でプログラミング教育が必修化され、より知識を深めようという民間のプログラミング教室で学ぶ子どもが増えています。盛岡市八幡町の「プログラミングカレッジ盛岡八幡館校」は、小学1年から中学1年まで約30人が在籍。最大6人の少人数制で、学年やスキルに応じてクラスを分けています。21日に開かれた基礎コースの講座では、小学生全員がエンターティメントで、学年やスキルに応じてクラスを分けています。21日に開かれた基礎コースの講座では、小学生全員がエンターティメントで、学年やスキルに応じてクラスを分けています。



学年やスキルに応じた少人数制指導を行うプログラミングカレッジ盛岡八幡館校

- ◇主催 岩手日報社、岩手大学
- ◇特別協賛 キオクシア岩手
- ◇協力 NTT東日本岩手支店、NTTドコモ東北支社、codeMo
- ◇後援 文部科学省、経済産業省、デジタル庁、岩手県、岩手県教育委員会、IBC岩手放送、全国新聞社事業協議会

## 広告

## 参加者の声

盛岡・岩手大付属小1年 松井 優輝さん  
初挑戦でファイナルまで進めてすごいです。自分たちが作ったプログラムコードを動かすのが楽しかったです。プログラミングでみんなの役に立ちたいです。次は、宿題を楽しくできるアプリを作りたいと思っています。

盛岡・山岸小5年 中島 稜太さん  
小学3年の春からプログラミングを始めました。できなかったところを試行錯誤してできるようになったのが嬉しいです。出場3回目の今回はヨガを取り入れ健康づくりのアプリを組みましたが、精度が高まっていきました。次も参加したいです。これからもプログラミングを続けていきます。

## プログラミング体験教室

宮古、北上、大船渡でも開催されました。



一関

住田

盛岡

二戸